



今津灯台歴史文化再発見プロジェクト（灯台×日本酒）

コンソーシアム名：今津灯台歴史文化再発見コンソーシアム

対象灯台：大関酒造今津灯台（兵庫県西宮市）

調査検証報告

大関酒造今津灯台（兵庫県西宮市）

今津灯台歴史文化再発見プロジェクト

コンソーシアム名

今津灯台歴史文化再発見コンソーシアム

構成団体

大関株式会社、西宮市、株式会社シード

1.調査・検証概要

調査検証を構想した背景

日本”最古”の現役灯台「大関酒造今津灯台（※）」
今津灯台の歴史は、兵庫県西宮市と大手日本酒メーカー大関の発展とともにあります。※以下、今津灯台と表記

今津灯台は、1810年に大関の5代目当主・大坂屋長兵衛が、灘の酒を江戸へ運ぶ樽廻船の安全を願い、私費で建設した、日本最古の木造現役灯台です。

灯台の建設には、西宮市、また大関をはじめとする日本酒産業の発展の歴史が大きく関わっています。そうした歴史的、文化的価値を、観光資源として有効に活用するための実証を目的に申請しました。



2.調査検証の目標～明らかにしたい仮説

仮説のメインテーマ：灯台×日本酒の事業で、
灯台を訪れる人を増やす

今津灯台と日本酒の深いつながりに着目し、その歴史的価値を再発見・発信することを目的としたツアーやコンテンツ制作を実施します。一方で、今津灯台は交通量の多い道路に囲まれており、横断歩道等がないため、多くの方を現地に集めるのが難しいという課題があります。

そこで、

- ① 安全なアクセスを確保するバスツアー形式の導入
- ② 焼杉板を活用したモバイル型の「灯台居酒屋」を展開し、「灯台から会いに行く」という逆発想のプロモーションを通じて、柔軟かつ効果的な誘客手法を検証します。



仮説① 来てもらう（インバウンド）



仮説② 会いに行く（アウトリーチ）

survey 01

今津灯台の基礎調査

基礎データ、設置された経緯、関係者インタビューを行いました。特に大関本社に眠る灯台にまつわる資料、海運と「下り酒」、社長インタビュー、西宮神社や今津小学校など、関係先でのヒアリングは、ツアーに物語と厚みを加えるものとなりました。

survey 02

今津灯台の歴史を再発見するツアーの組み立て

基礎調査で分かった内容、周辺の海や日本酒にまつわる場所の洗い出しを行い、ツアールートを決定。海上保安庁などへのインタビューでは、今津灯台の重要性が今でも大きいことが分かりました。

survey 03

ツアールートの下見及び行程の決定

Survey02で洗い出したツアールートを現地調査し、各立ち寄りポイントで海と灯台、日本酒産業との関係性を検証。また、そのルートと各コンテンツについて、旅行会社よりアドバイスを受け、最終のツアー行程を決定しました。

survey 04

モニターツアーの催行（11月28日）

11月28日にモニターツアー「今津灯台ものがたりー海と酒が灯す、歴史の光ー」を催行しました。参加者は国・県・市の関係機関、観光協会、旅行会社など20人が参加。大関本社をはじめ、西宮神社、西宮能楽堂など、今津灯台によって安全に運ばれた日本酒が地域にもたらした歴史的価値が浮かび上がるツアーになりました。

survey 05

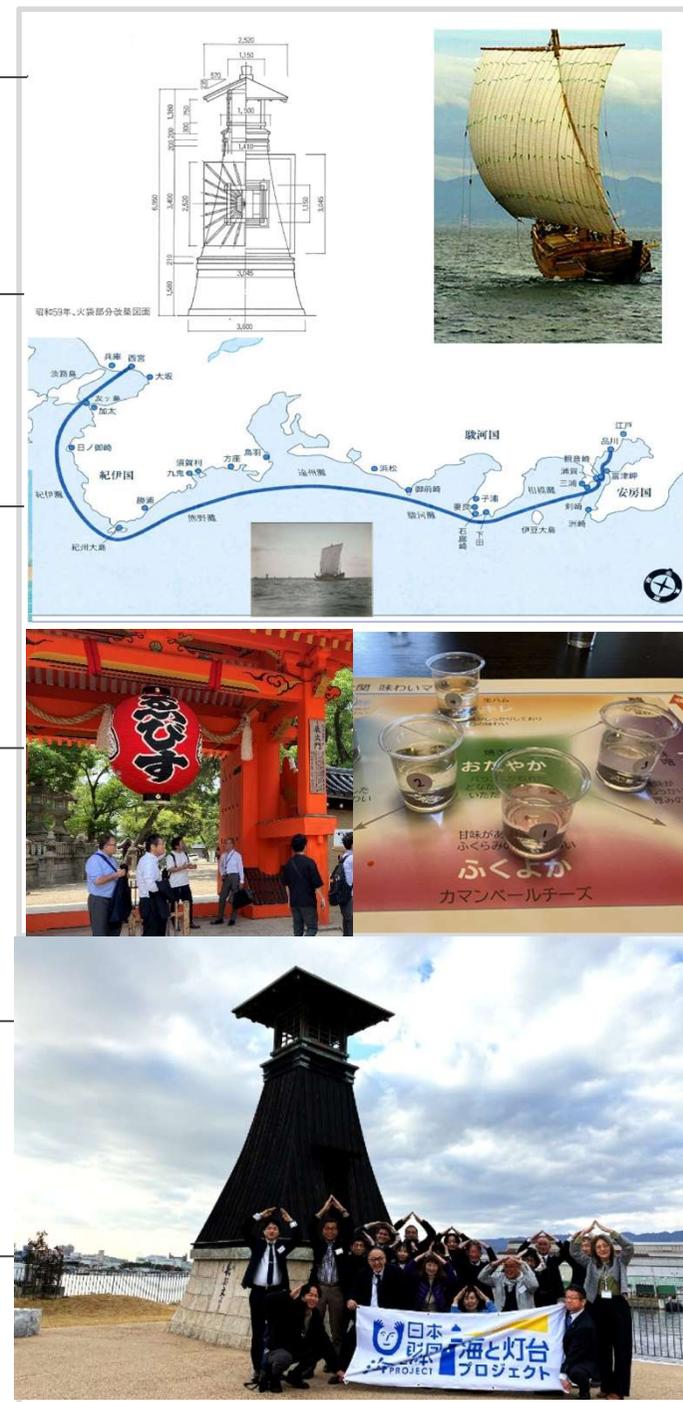
焼杉板の活用検討

「今津灯台から会いに行く」をテーマに、灯台に使われている焼杉板の活用を検討。当初予定していた「酒樽を再利用した居酒屋」（キッチンカー）の運用を検討したものの、焼杉板の保存状態や運用及びコスト面から実現的でないと結論に至りました。

survey 06

「灯台から会いに行く」手法の再検討

大関が関連する日本酒イベントや地域のイベントを通じ、「なぜ灯台が必要だったのか（海運と酒）」の物語を伝えることに特化。今津灯台の物語パネルやオブジェ、日本酒の試飲・ペアリング体験などで灯台の物語を各地に届ける手法を検討します。





おおぜきしゅぞういまづとうだい

大関酒造今津灯台

基礎データ



初点灯	昭和43年11月1日 創建：文化7年（1810年）、再建：安政5年（1858年）
灯台の高さ	地上から構造物の頂部まで7.6メートル(7.56)
灯りの高さ	13m
灯質	不動赤光
光達距離	4.0海里
レンズ	LED灯器 II型
構造	木造（基壇は石積み（竜山石））
形状	四角形灯ろう型 木造袴腰付灯籠型
設計者	（創建建立者）長部家五代目 大坂屋長兵衛

設置された経緯



1793年(寛政5年)にできた今津港は、江戸の酒荷を運ぶ樽廻船でにぎわいました。大関の長部家5代大坂屋長兵衛は、1810年(文化7年)、この港に出入りする船のために私費を投じて「大関酒造今津灯台」を建てました（2024年に現在の場所に移設）。

「大関酒造今津灯台」は、航路標識として海上保安庁から正式承認されている日本最古の灯台であり、西宮市指定重要有形文化財にも指定されています。

関係者インタビュー（抜粋）



大関株式会社

長部訓子
社長



神戸海上保安部

小西裕幸
交通課長

今津灯台は、大関の歴史だけでなく、西宮という地域の誇りを形にした存在でもあります。今津灯台を地域資産として守り継ぐだけでなく、海外に向けた物語の核にしたい。日本酒がユネスコ無形文化遺産に登録され、世界的に注目される中で、「海を越えて明かりを届ける灯台」は、日本酒の歴史・文化・精神性を象徴する存在になり得ると考えます。

長い間、維持管理をされ設置当時の姿を維持されていることは大変なご苦労があったと思われ、今では灘五郷の歴史や日本酒文化を象徴する西宮のシンボリック的存在として観光、文化的に重要な意義を持つまでになったことは、航路標識の役割を広く知って頂く施設として高く評価をしており、これまでの活動に敬意を表したいと思います。 5

今津灯台ものがたり — 海と酒が灯す、歴史の光 —

今津灯台は1810年、大関五代目当主・大坂屋長兵衛が、灘の酒を江戸へ運ぶ樽廻船の航海安全を願い、私費で建立した日本最古の木造現役灯台です。酒造りの発展と海運の繁栄を背景に、灯台は二百年にわたり西宮の海を照らし続けてきました。

本調査検証では、今津灯台の価値は「場所」や「モノ」そのものにあるのではなく、日本酒を軸に地域の信仰、教育、芸能文化を結びつけてきた歴史的な文脈を、物語として伝える点にあることが明らかになりました。

モニターツアーでは、大関本社や西宮神社、西宮能楽堂などを巡る体験を通じ、灯台が地域文化の結節点であったことが参加者に深く共有されました。

今津灯台は今、過去を伝える遺構から、地域の誇りと記憶を未来へ灯す物語の起点として再認識されています。



神戸海上保安部ヒアリング

神戸海上保安部のヒアリングからは、今津灯台が設置当時の姿を維持していること、今では灘五郷の歴史や日本酒文化を象徴する西宮のシンボリック的存在として観光、文化的に重要な意義を持つまでになったことを高く評価いただいたことが分かりました。



大関資源①
長部社長の灯台への想い

大関株式会社の創業家の長部訓子社長は、今津灯台の価値を単なる歴史的建造物にとらえるのではなく、未来志向、あるいは海外に向けた「地域の誇り」と位置付けています。



大関資源②
豊富な大関本社の資料・人材

大関の本社4階には、樽廻船や今津灯台の模型、船笛筒など、灯台設立当時を思わせる資料が並んでいます。また今津灯台の「生き字引」と呼ばれる総務人事部の伊藤大輔さんは、その博識から地元テレビ局の取材を受けるほど。今後のツアー造成に欠かせないキーマンです。



大関資源③
静和館・宮水・きき酒体験

大関が所持する静和館は社員の研修や親ぶくなどに使用される、安政5年ごろに建築された伝統的古民家。また、酒作りに欠かせない「宮水」の井戸や、オリジナルの「きき酒」体験は、ツアーの満足度を上げるキーになります。



アクセス困難な立地

今津灯台は交通量の多い道路に囲まれており、横断歩道等がないため、多くの方を現地を集めるのが難しいという課題をあらためて確認。しかし周辺には海浜公園や運動グラウンドがあり、方法次第では立ち寄りスポットになると確信しました。



灯台周辺の整備

アクセスの困難はありますが、ウォーキングなど、訪れる人は少なくない場所でもあります。現在、周辺には説明看板のみで、休憩設備や積極的な説明手段がないため、価値を知らせるためのQRやARなどの仕掛けが必要と考えます。



信仰と日本酒

西宮神社は全国約3500ある「えびす神社」の総本山。十日えびすの福男選びで有名です。地域の海運業者や酒造メーカーの寄進物も多く、大関と関係の深い福應神社とともに、歴史を紐解く場として大変魅力的なことが分かりました。



地域文化への貢献

今津・西宮地域は文化度が高く、その背景には下り酒や樽廻船によって得た富を地域の発展に積極的に活用した地元の産業人の想いがありました。西宮能楽堂や今津小学校に残る六角堂はそんな見どころの一つです。



旅行会社へのヒアリング

ツアールートやコンテンツ案は事前にインバウンド専門の旅行会社とテーマ性の高い旅行を主催する旅行会社2社にヒアリング。参加者の満足度が高くなるよう、食や各種体験へのアドバイスなどを実際のツアーに生かしました。

✅ 立ち寄りポイント別 満足度平均 (5点満点)	
立ち寄りポイント	平均満足度
西宮能楽堂	★4.64
静和館 (ランチ&ペアリング)	★4.58
西宮神社 (正式参拝・解説)	★4.33
今津灯台 (外観・内部見学)	★4.25
大関本社 (歴史説明・動画)	★3.92

ツアー振り返り①全体

アンケートは12人とやや少ないが、総合評価としては9割以上が「満足」と回答しました。特に評価が高かったのが、地元食材を使った静和館での昼食、西宮能楽堂での能体験、また、今津灯台は中を見学できたことが参加者の満足度に繋がりました。



ツアー振り返り②食の魅力

昼食は、今回、地元の料理人にオリジナル弁当を依頼。神戸や西宮産の食材を多用してもらい、A5ランクのサロマ牛のステーキをメインに、ツブ貝を灯台の形に盛り付けた前菜や、大関の酒かすを用いたかす汁など、「灯台×酒造り×地元食材」を表現しました。



ツアー振り返り③灯台の希少性

今津灯台では、今までの立ち寄り処で学んだ酒造りと地域の関係性を具現化するシンボルとしての説明があり、特別に灯台の中にも入ってもらい、設立当時の面影を感じてもらいました。



焼杉板活用①

大関本社にある古い酒樽を再利用した「居酒屋」から着想を得て、移動式「灯台居酒屋」（キッチンカー）の再現を試みるも、調査・ヒアリングからその事実は見つかりませんでした。



焼杉板活用②

当初、2023年に移築した際に修復した焼杉板の廃材を活用する構想は、焼杉板の劣化が激しく、再利用にそぐわないことから見送りとなりました。



グッズ類の試作

今後の「今津灯台ものがたり」を紡ぐうえで、欠かせないのが各種グッズです。今回はロゴマークを開発し、トライアルとして、海上保安庁の灯台カードに合わせて作ったオリジナルの灯台カード、オリジナルワンカップ大関、トートバッグを制作しました。

課題 ツアー想定料金と内容のアンバランス。満足度は高いが、価格納得感が十分に形成されていない

- ◆アンケートではツアー内容への評価は高い一方、参加費については割高とを感じる声が見られ、体験価値と価格の納得感が十分に共有されていないことが課題として浮かび上がった。
- ◆特に、既存映像の使用や説明のばらつきにより、「特別なツアーならではの価値」が伝わりにくく、コストへの厳しい評価につながっていると考えられる。



施策 価格ではなく体験価値で選ばれるツアー設計へ～限定性の可視化とコース分化による納得感の創出

- 価格を下げるのではなく、価値の“見せ方”を再設計：「このツアーでしか体験できない」要素（語り・裏話・限定演出）を明確化
- 体験内容に応じたコース分化：フル体験型／ライト版など、価格帯と内容を整理
- 価格の根拠を事前に伝える：参加前の案内で「何に価値があるツアーか」を言語化し、期待値を調整

課題 モニターツアーから事業化へー大関の価値向上と持続可能な運営体制の構築ー

- ◆モニターツアーでは、大関社員が講師対応や現地対応に深く関与することで高い満足度を得ることができた一方、社員は本来主とする業務があり、ツアー運営やおもてなしを日常業務として継続することは現実的ではないことが明らかとなった。
- ◆良質なコンテンツは創出できたものの、次年度以降に継続可能な運営スキームの構築が課題。



施策 ランドオペレーター連携による役割分担型事業モデルの構築

- 今後の事業化に向けては、ツアーの企画・運営、配車や食事手配などを担う優良なランドオペレーターとの連携を基本とし、大関は「場所の提供」と「講師派遣（語り・解説）」に役割を特化した事業モデルを構築することが有効である。
- これにより社員の過度な稼働を避けつつツアーの質を維持し、年数回の限定実施や講演・体験プログラムとして展開することで、今津灯台の周知、ブランド価値向上と収益確保の両立を図る。

課題 立地的制約による今津灯台単体集客の限界

- ◆今津灯台は、日本最古の現役灯台として高い歴史的価値を有する一方、交通量の多い幹線道路に囲まれ、安全な徒歩アクセスが難しい立地条件にある。このため、灯台そのものを目的地とした「滞在型・常設型」の集客には構造的な限界があることが、モニターツアーの実施を通じて明らかとなった。
- ◆今後の事業化においては、「現地に多くの人を呼び込む」モデルに固執するのではなく、立地条件を前提とした発想転換が求められる。



施策 「現地集客」から「物語を届けに行く」アウトリーチ型展開への転換

- 今津灯台への集客を主軸とせず、灯台の歴史や日本酒文化との関係性を「物語」として再編集し、別拠点やイベント、出張展示、講演・体験プログラムとして展開するアウトリーチ型施策を検討する。
- 立地的制約を超えて価値を広く届けることで、今津灯台を「訪れる場所」ではなく「語りの起点」として位置づけ、事業の持続性と波及効果の向上を図る。

課題 焼杉板活用による「モノ」起点施策の限界

- ◆当初は焼杉板を活用した移動型拠点を検討したが、劣化や数量の制約、安全管理・コスト面から、持続的な事業展開には適さないことが明らかとなった。
- ◆また、焼杉板という「モノ」に依拠した訴求だけでは、灯台の価値を十分に伝えることが難しいという課題が確認された。



施策 焼杉板を主役としない「物語中心」の活用方針への転換

- 焼杉板は主たる集客装置とせず、今津灯台の歴史や記憶を象徴する要素の一つとして位置づける。
- 素材活用に依拠せず、動画や日本酒を軸とした物語性を中心に再編集することで、持続可能で展開性のある価値発信につなげる。

あのワンカップ大関がなぜ？ 有名酒造メーカーが珍しい民間の灯台を建てた理由とは【現役の木造灯台としては、日本最古の灯台へ】

海と灯台プロジェクト #25

第&お出かけ 47部活情報

恩田陸



大関が所有する今津灯台



恩田陸さん。

ライフスタイル誌「CREA」公式サイト <https://crea.bunshun.jp/articles/-/55433>
▽直木賞作家恩田陸さんがつづる灯台巡り紀行【大関酒造今津灯台、旧堺燈台】

PR TIMES フォトリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES プレスリリースを受信 企業登録申請 ログイン

Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ | スポーツ

大関株式会社 会社概要 プレスリリース フォロー

日本最古の現役灯台「大関酒造今津灯台」が未来へ灯す新たな光。～西宮の酒文化と歴史の再発見をめざすプロジェクトが始動～

大関株式会社 2025年7月31日 10時00分

大関株式会社（社長：長部訓子/兵庫県西宮市）は、今年市制100周年を迎えた西宮市、地域のマーケティング会社である株式会社シードと、「今津灯台歴史文化再発見コンソーシアム」を発足しました。

本コンソーシアムは、日本最古の現役民間灯台である「大関酒造今津灯台（以下、今津灯台）」を核に、文化財としての灯台を地域の誇りとして再定義し、日本酒と西宮市の発展の歴史や魅力を国内外に発信することを目的としています。

地域情報ウェブメディア 西宮流（スタイル）

西宮流 NISHINOYAMA STYLE

次へ Bring the Serenity of Kyoto Winter Home

街かど小ネタ イベント・催し エンタメ・文化 西宮グルメ 西宮ベディ

西 - 田代山史之。「今津灯台」が未来への新たな光へ！～西宮の酒文化と歴史の再発見をめざすプロジェクトが始動～

街かど小ネタ

「今津灯台」が未来への新たな光へ！～西宮の酒文化と歴史の再発見をめざすプロジェクトが始動～

©2025年8月7日 編集 |

実際に飲まよう

大関酒造の長部家五代目長兵衛氏によって、江戸にお酒を運ぶ「樽廻船」の航海の安全を願って1810年に建てられた今津灯台。1984年に創建当時そのままの姿に復元され、現在に至っており、西宮市に

兵庫県連のプレスリリース

日本最古の現役灯台「大関酒造今津灯台」が未来へ灯す新たな光。～西宮の酒文化と歴史の再発見をめざすプロジェクトが始動～

大関株式会社

大関株式会社（社長：長部訓子/兵庫県西宮市）は、今年市制100周年を迎えた西宮市、地域のマーケティング会社である株式会社シードと、「今津灯台歴史文化再発見コンソーシアム」を発足しました。本コンソーシアムは、日本最古の現役民間灯台である「大関酒造今津灯台（以下、今津灯台）」を核に、文化財としての灯台を地域の誇りとして再定義し、日本酒と西宮市の発展の歴史や魅力を国内外に発信することを目的としています。この事業は、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を掘り起こし、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施します。



YouTube 検索

調査検証コース

今津灯台歴史文化再発見プロジェクト（灯台×日本酒）中間発表

コンソーシアム名：今津灯台歴史文化再発見コンソーシアム（大関株式会社、西宮市、株式会社シード）
対象灯台：大関酒造今津灯台（兵庫県西宮市）

2025年度中間報告07【今津灯台歴史文化再発見プロジェクト】今津灯台歴史文化再発見コンソーシアム

調査検証をふまえた 今後の展開案

事業背景1

◆ ポテンシャル

◆ 今津灯台は、日本最古の現役灯台として、海運の安全を支えてきた「海の公共インフラ」であり、同時に、港・物流・信仰・生業といった地域の営みが交差する記憶の結節点でもあります。

◆ 本調査では、灯台を単体の見学対象とするのではなく、「なぜこの場所に灯台が必要だったのか」という海運史・地域史の文脈から再構成することで、来訪者の理解と満足度が大きく高まることが確認されました。

◆ その文脈を来訪者に分かりやすく伝える媒介として、地域の酒造りや食文化といった「暮らしの視点」を取り入れることで、抽象的になりがちな海運史・灯台史を、体感的に理解できる構成が有効であることが確認されました。

事業背景2

💡 私たちが取り組む理由とねらい

💡 本事業では、今津灯台を単なる「見学対象」ではなく、海運・物流・地域の営みを読み解く「物語の起点」として再定義し、海とともに生きてきた地域の歴史文化を、持続的に発信することを目指します。

💡 その際、日本酒や食文化といった地域資源は、灯台と海の物語を来訪者の生活感覚に引き寄せるための「翻訳装置」として位置づけます。

事業概要

事業名

「今津灯台ものがたり」— 灯台を起点に、海運と地域文化を読み解く体験・発信型コンテンツ —



1. 尋ねる文化財（High Value）

今津灯台が果たしてきた役割や、海運と地域の暮らしの関係性を深く理解するための少人数制プログラム。地域文化の具体例として、日本酒や食の体験を組み込む。ターゲットは歴史愛好家、海事・海洋文化に関心のある層、日本酒ファン、企業研修、富裕層インバウンドなど。



2. 「語りによく文化資源」（High Reach）

今津灯台が果たしてきた役割や、海運と地域の暮らしの関係性を伝える出張型展示をパッケージ化。展示では、灯台の歴史や海運の背景を軸に構成し、地域文化の具体例として、日本酒や食文化の体験を組み合わせる。全国の文化施設、百貨店催事、海や地域文化をテーマとしたイベント等で展開し、灯台文化・海洋文化への関心喚起を図る。

事業名：「今津灯台ものがたり」 — 灯台×日本酒×地域文化を軸とした体験・発信型コンテンツ —



熱源となる人たち (核となる主体者)

大関株式会社

今津灯台の所有・管理主体。歴史的価値および日本酒文化に関するコンテンツの中核を担う。語り・講師・監修機能を担い、事業全体の方向性を決定



熱源を支える人たち (その他の主体者)

株式会社シード

調査検証成果を踏まえた企画整理およびコンテンツ設計を担当。
事業化フェーズにおいては、主体者および実施事業者と連携しながら、企画・監修・全体調整を担う。

旅行会社・ランドオペレーター

ツアー運営、配車、手配等の実務を担う事業者。当面は小規模・限定実施を前提とし、企画主体による調整を行いながら、段階的に外部事業者との連携を検討する。



協力者

西宮市・観光協会

地域文化資源としての位置づけ支援、教育・観光分野との連携

神戸海上保安部

灯台・航路標識に関する専門的知見の提供
今津灯台の歴史的価値発信に関する助言

地域文化施設など

体験・展示・食を通じた価値補完

事業名：「今津灯台ものがたり」—灯台を起点に、海運と地域文化を読み解く体験・発信型コンテンツ—

新たな灯台利活用モデル事業が定義する「自走化4分類」のうち、本事業は以下を目指します

本事業が 目指す型	分類	自走化の方法	中心となる事業者
✓	I ビジネス型	灯台および付属施設等をホテルなどに利活用する、 または 灯台および周辺地域の魅力をコンテンツとして利活用することで、 <u>ビジネスとしての収益化を達成し、自走する。</u>	民間事業者
	II 非営利 収支均衡型	灯台及び周辺施設等を活用し、 イベント開催や観光ガイド等を組織しながら、主として、 <u>収支均衡となるような小規模の地域活性化事業を行い、 非営利団体として、自走する。</u>	非営利任意団体、 NPO等
	III 自治体 補助金型	自治体が主体となり、 新たに地域課題や観光資源の一つとして 灯台及び周辺施設等を位置づけることにより、 <u>自治体の予算やリソースが投入され、自走する。</u>	自治体
	IV お祭り協賛型	灯台に係るイベントを開催することで、 灯台を含むエリアの新たな価値と集客・PR効果を創造し、 <u>地元自治体や地域企業からの協賛金や、出店料、 参加者から入場料などの イベント収益によって、自走する。</u>	イベント事業者、 放送局

調査検証資料

NO	種別	タイトル
①	基礎調査	海上保安庁ヒアリング
②	基礎調査	大関長部社長ヒアリング
③	基礎調査	今津小学校校長ヒアリング(六角堂について)
④	基礎調査	西宮神社ヒアリング
⑤	基礎調査	西宮能楽堂ヒアリング
⑥	基礎調査	福應神社ヒアリング
⑦	基礎調査	大関、今津灯台、地域の歴史資料
⑧	基礎調査	今津灯台設計図
⑨	オリジナル調査	旅行会社ヒアリング
⑩	オリジナル調査	モニターツアー行程表
⑪	オリジナル調査	モニターツアーアンケート
⑫	オリジナル調査	モニターツアーアンケートサマリー
⑬	オリジナル調査	焼杉板活用の可能性検討資料
⑭	モニターツアー	大関本社オリエン資料
⑮	モニターツアー	大関静和館資料
⑯	モニターツアー	静和館昼食おしながき
⑰	モニターツアー	大関魁蔵資料
⑱	モニターツアー	大関味わいマップ・お酒ラインナップ
⑲	モニターツアー	今津灯台ロゴマーク漢字・ローマ字
⑳	制作物	オリジナルトートバッグ
㉑	制作物	オリジナルワンカップ大関
㉒	制作物	今津灯台「灯台カード」おもて・なか
㉓	制作物	今津灯台ものがたり(しおり)
㉔	制作物	大関周辺マップ(ルートマップ)